

国際獣医寄生虫学会 (The 21st International Conference of the World Association for the Advancement of Veterinary Parasitology) での発表

井 関 博

連合獣医学研究科獣医学専攻基礎獣医学講座（博士課程3年）

1. 目 的

国際獣医寄生虫学会 (The 21st International Conference of the World Association for the Advancement of Veterinary Parasitology) に参加して研究成果を口頭にて発表した。さらに寄生虫学分野の最新の情報を得るために各国の研究者の方々と情報交換を行った。

2. 期 間

平成19年8月17日～平成19年8月25日

3. 場 所

Gent, Belgium

4. 内 容

International Conference of the World Association for the Advancement of Veterinary Parasitology (以下, WAAVP) は2年に一度開催される学会であり, 世界各国の獣医寄生虫学分野に携わる研究者が参加して活発な討議や情報交換が行われる。今大会はベルギーのアントワープという町にある International Convention Center という国際会議場で開かれ, 非常に多くの参加者が集った。獣医寄生虫学分野における国際学会の中でも最大規模であるため, 726にも上る演題数が4日間に詰め込まれており, 非常に密度が高い学会となっていた。それにも関わらず会期中の夜には必ず趣向を凝らしたレクリエーションが用意されており, そこでも世界各地の研究者の方々と様々な情報交換を楽しく行うことができた。一般演題が終わった夕刻にスポンサー企業が行うセミナーでは, ワクチンによる予防を推奨する研究者と薬剤による治療を推奨する研究者の討論や, ダニやノミといった外部寄生虫対策についての最新情報等, 世界でもその分野で先端を走る研究者の方々の貴重なお話を興味深く, また楽しく聞くことができた。

私は初日に口頭発表で “Molecular diagnostic method for babesiosis; Direct detection of *Babesia microti* DNA from heat-treated blood by loop-mediated isothermal amplification” という演題で発表させていただいた。発表内容は LAMP 法という新しい技術を用いて人獣共通感染症としても知

られるバベシアという寄生虫の遺伝子を検出する診断法を開発したことについてであったが、日本の企業が開発したユニークなこの新しい技術による研究成果は世界の研究者の興味を十分に引くことができたと討論から実感することができた。ただし日本語による発表と異なり、英語力の不足から発表自体には十分な満足は得られず、より一層英語力の強化が必要だと痛感した。

一つの専門分野とはいえ、獣医寄生虫学分野は其中で我々が専門としている原虫という小型のものから線虫のような大型のものまで様々であり、普段聞くことが少ない原虫以外の研究発表は非常に興味深いものであった。しかし国際学会の発表を聞いて最も印象に残ったことは、口頭発表が非常に上手な人が多いことであった。短い時間であっても的確に要点が抑えてあり、わかりやすく、また時にユーモアを交えて聴衆の心に残る発表ができる研究者を何人も見ることができた。これまで日本の学会に出席してきて、そういった研究者にはなかなか出会えなかったため、学術的内容以外でもそういった点においても非常に勉強になった。次回国際学会で発表する折には、研究内容に自信を持っていることは言うまでもなく、発表の姿勢にも自信を持って望みたいと考えている。

最後に、この度の学会参加に際して多大なご支援をいただいた帯広畜産大学後援会に心より感謝申し上げます。



キーワード：人獣共通感染症, Loop-Mediated Isothermal Amplification (LAMP), 診断, *Babesia microti*